

# 平成28年ホヤ類調査結果速報 No. 2

平成28年8月16日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

【アドレス：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>】

8月11日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物および浮遊幼生の調査を行いました。

## 結果概要

- 耳吊りホタテガイ上に、多数のヨーロッパザラボヤが付着しています（図1）付着個体数はホタテガイ1枚あたり平均114.9個体です。この5ヶ年で最も多く、平成21年の大量付着に匹敵する数です（表1、図3上）。
- 付着しているヨーロッパザラボヤの平均体長は12.2mmです。5mm未満の個体の割合が高く、新たな付着が継続しているとみられます（図2-1）。
- 引き続き、浮遊幼生が出現しています（図4）。なお、ホタテガイ上に新たに付着したヨーロッパザラボヤは、まだ、大部分が未成熟であり、浮遊幼生は前年の付着群に由来すると考えられます。
- 平成21年以来の大量付着となることが懸念されます（図3）。今後の水産試験場や水産技術普及指導所の情報に注意するとともに、付着量が多い地区では、早めに付着物除去作業の準備を検討下さい。

図1 ホタテガイに付着するヨーロッパザラボヤ稚ボヤ 平成28年8月11日 八雲地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・吉田  
TEL：0138-83-2893 FAX：0138-83-2849

# 1：耳吊りホタテ貝付着物調査

〔調査月日：8月11日、調査場所：八雲沖、採取数：上中下層 各5枚〕

ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を調査しました。多数のヨーロッパザラボヤの付着が確認されました(図1、表1)。ヨーロッパザラボヤの平均付着個体数はホタテガイ1枚あたり114.9個体、平均サイズは12.2mmと前回の調査(それぞれ20.3個体、1.7mm)から大きく増加、成長しています(図1、2-1)。付着個体数が多い地区では、今後、付着重量の急激な増加が懸念されます(図3下)。

表1 付着生物調査結果(八雲地区：平成28年8月11日)

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	地区平均
全付着物重量	65.5g	40.0g	17.8g	41.1g
ヨーロッパザラボヤ	56.8g	35.7g	13.0g	35.2g
その他	8.7g	4.3g	4.8g	5.9g
ヨーロッパザラボヤ個体数	80.6個体	129.2個体	134.8個体	114.9個体
平成27年8月(H27.8.1)の個体数	47.4個体	78.4個体	103.2個体	76.3個体
平成26年8月(H26.8.21)の個体数	56.8個体	57.8個体	57.0個体	57.2個体
平成25年8月(H25.8.19)の個体数	12.4個体	42.4個体	88.2個体	47.7個体

図2-1 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成(八雲地区：平成28年8月11日)

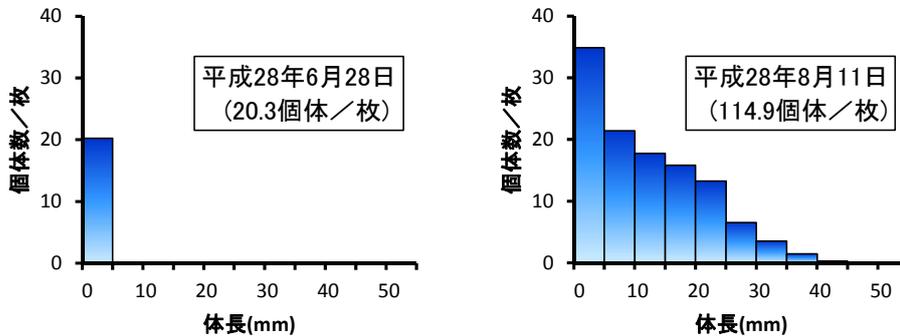
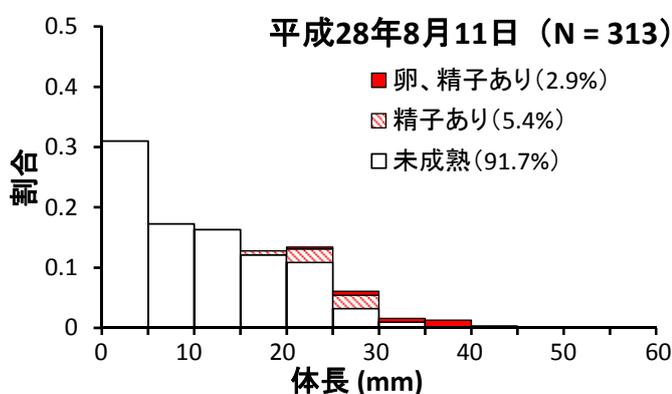
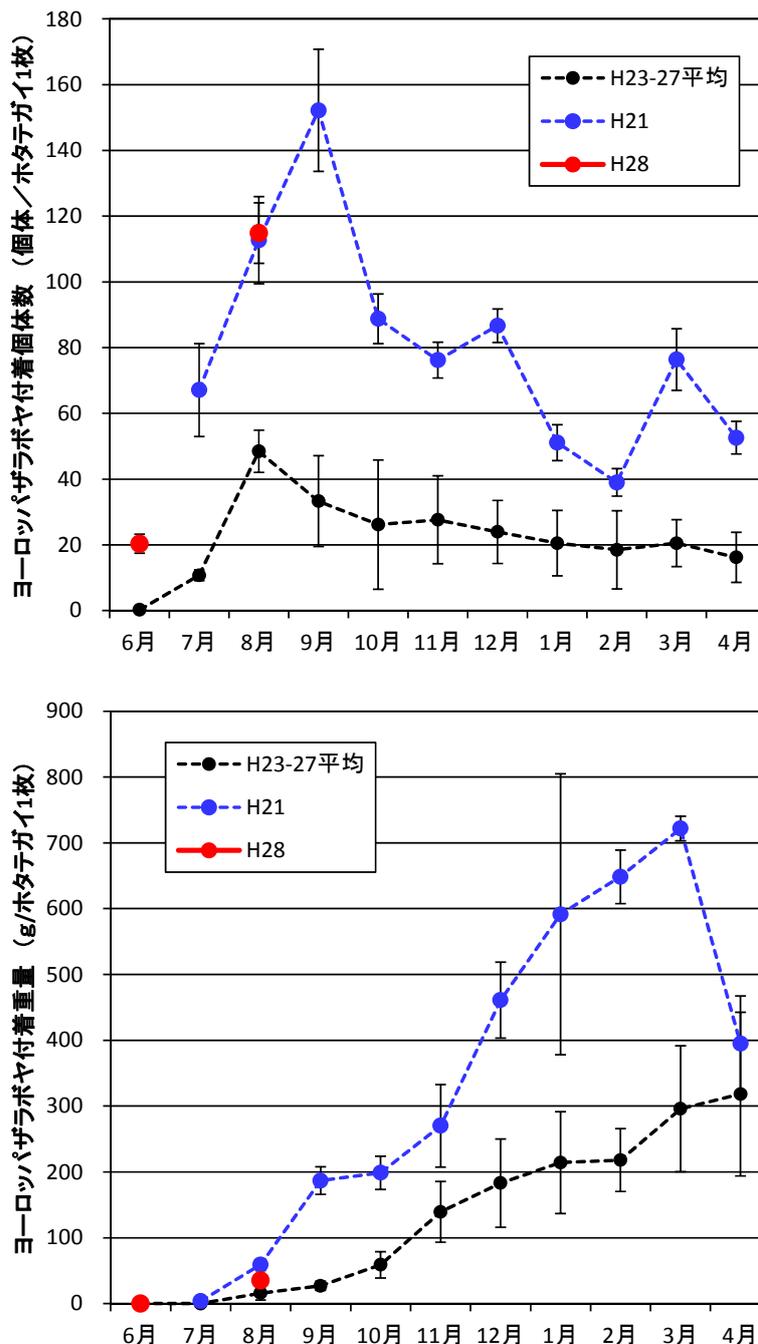


図2-2. ヨーロッパザラボヤの成熟状況(平成28年8月11日)



各層1枚のホタテガイに付着するヨーロッパザラボヤ(計313個体)の輸精管、輸卵管への精子、卵の蓄積を調査しました。体長15mm以上で精子を持つ個体、20mm以上で精子と卵を持つ個体(成熟個体)が見つかりました。ただし、成熟個体の割合は非常に低く、大部分は未成熟個体です。

図3 ヨーロッパザラボヤの付着量（八雲地区）

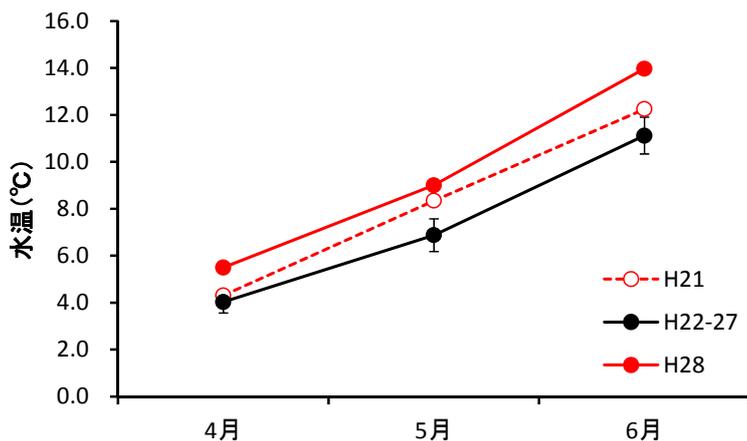


上図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

下図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。過去5ヶ年（H23～27年）のデータでは、ヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着は7～9月が中心となっています。付着重量は10月～翌2月にかけて急激に増加します。平成28年は、6月末の時点で、過去5ヶ年の7月の平均個体数を上回っており、付着が早く始まったと考えられます。8月の付着個体数も多く、平成21年の大量付着に匹敵する数となっています。今年は、①5～6月の水温が例年より高い、②6月から付着が本格化、③8月にホタテガイ上の平均付着個体数が100個体以上となる等、過去最悪の大量付着となった平成21年と共通する特徴が見られます。

参考 八雲沖 3 マイル定点の水溫 (D = 5-15 m) の経年比較



観測は毎月の調査時に実施。縦棒は標準偏差。

## 2：浮遊幼生調査結果

### 2-1. 八雲地区 (八雲沖 3 マイル定点) 調査結果

[調査月日：平成 28 年 8 月 11 日、調査場所：八雲沖水深 17m、水深 32m、水深 40m]

ヨーロッパザラボヤの浮遊幼生は 3 地点の平均で海水 1t あたり 7.1 個体でした (図 4)。過去のデータと比較して、それほど多くはありませんが、今後も出現が継続すると見込まれます。

図 4. ホヤ幼生出現状況の経年比較 (八雲地区)

